

会 議 事 録

1 会議名	平成26年度 第3回 長岡市障害者施策推進協議会
2 開催日時	平成26年12月19日（金曜日） 午後1時30分から午後3時頃まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4 出席者名	<p>（委員）阿部委員 池野委員 石井委員 石川委員 加邊委員 小林節子委員 佐々木委員 斉木委員 嶋田委員 内藤委員 長井委員 沼田委員 長谷川和明委員 長谷川剛委員 藤田委員 本田委員 山本委員</p> <p>（事務局）福祉保健部長 福祉総務課長ほか関係職員 福祉課長ほか関係職員 子ども家庭課長 保育課課長 学校教育課長 長岡市社会福祉協議会 中村事務局長</p>
5 欠席者名	（委員）菊池委員 堀委員 丸山委員
6 議題	<p>（1）第4期長岡市障害者基本計画・障害福祉計画（案）について （2）パブリックコメントの実施について （3）その他</p>
7 審議の内容	
発言者	議 事 内 容
福祉総務課企画係長	<p>1 開会 本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。ただ今から、平成26年度第3回長岡市障害者施策推進協議会を開会させていただきます。</p>

<p>委員</p>	<p>本日は、長岡市身体障害者団体連合会 菊池委員、長岡市立総合支援学校 堀委員、新潟県立精神医療センター 丸山委員の3名が所用のため欠席でございますので、あらかじめ御報告いたします。</p> <p>また、10月31日を持ちまして、長岡市ろうあ者福祉協会の小林委員が一身上の都合により退任されました。後任の委員といたしまして、同協会の佐々木美恵子様に御就任をお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただきましたので、本日御紹介させていただきますとともに、一言御挨拶を頂戴したいと思いますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>皆様こんにちは。先ほど御紹介いただきましたが、長岡市ろうあ者福祉協会の代表で新委員の佐々木美恵子と申します。</p> <p>今までは男性の小林でしたが、都合により私に交代いたしました。皆様と一緒に楽しく会議をしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。</p>
<p>福祉総務課企画係長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議題に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>事前にお配りした資料といたしまして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料 1「第4期長岡市障害者基本計画・障害福祉計画（案）について」 ・資料 2「パブリックコメントの実施について」 <p>本日配付の資料といたしましては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の会議の配席図 ・第4期障害者基本計画・障害福祉計画（案）の正誤表 <p>でございます。</p> <p>また、一部資料を差替えさせていただきたくて御用意させていただいたものがございます。</p> <p>まず、正誤表を御覧いただきたいと思います。</p> <p>総論の2ページですが、こちらにグラフのデータを追加させていただきましたので、お手数でも差替えいただければと思います。</p> <p>それから、各論の47ページに一部項目を追加いたしましたので、こちらの記載をお願いいたします。</p>

<p>委員長</p>	<p>48、49 ページの部分ですが、こちらは新たな変更点ではございませんで、本来付ける必要がなかったものでございますので、恐縮ですが、こちらのページを削除していただければと思います。</p> <p>74、75 ページでございますが、こちらに表の追加をさせていただきたいと思っておりますので、お手数でも差替えをお願いいたします。</p> <p>以上が正誤表に係る資料の説明でございます。</p> <p>最後に、「ながおかタニタ健康くらぶ」会員募集というパンフレットをお付けしてございます。</p> <p>以上が資料となります。お手元にはない方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>それでは、本日の議題に入ります。</p> <p>ここからは、委員長の進行でお願いします。</p> <p>皆さん、ごめんください。</p> <p>雪がいっぱい積もってまいりました。その雪道の中、そして非常に外出するのに大変な中、この第3回長岡市障害者施策推進協議会に御参加いただきありがとうございます。今回は総論ということで大きな方向性について説明がありました。今回も事務局の説明を聞き、御理解いただきながら、皆さんの御意見をいただきたいと思っております。</p> <p>本日も皆さんの御協力をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>議題に入る前に、会議の傍聴について確認したいと思います。</p> <p>この会議は公開です。本日、傍聴希望者がいらっしゃいますので、許可したいと思います。委員の皆様、傍聴を許可してよいでしょうか。</p> <p>承認をいただきましたので、傍聴を許可いたします。</p> <p>2 議題</p> <p>それでは、議題の(1)第4期長岡市障害者基本計画・障害福祉計画総論(案)について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>私のほうからは、資料 1 の特に障害者基本計画部分について御説明させていただきます。その後、障害福祉計画につきましては、</p>
<p>福祉総務課長</p>	<p>本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>私のほうからは、資料 1 の特に障害者基本計画部分について御説明させていただきます。その後、障害福祉計画につきましては、</p>

福祉課長	<p>各担当課長から御説明申し上げます。 よろしくお願いたします。</p> <p>(資料 1 に沿って説明)</p> <p>よろしくお願いたします。 続きまして、私のほうからは、障害福祉計画部分について御説明させていただきます。</p> <p>(資料 1 に沿って説明)</p>
子ども家庭課長	<p>私のほうからは、子どもの部分について御説明させていただきます。</p> <p>(資料 1 に沿って説明)</p>
委員長	<p>ありがとうございました。 非常に膨大な計画書でございます。総論、各論について説明があったわけでございますが、今までの皆さんの意見による修正等を含めまして、皆さんから質問や御意見などがありましたら遠慮なくいただきたいと思ひます。</p>
委員	<p>20ページですが、現状と課題の2つ目の の文章が読み取れないのですが。</p>
福祉総務課長	<p>こちらは主語である「障害のある人」という文言が抜けておりません。 大変失礼いたしました。</p>
委員長	<p>これから修正いただけると思ひます。 その他、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>54ページの(2)地域生活支援拠点の整備ですが、平成29年度末までに1か所以上の「居住支援機能」と「地域支援機能」を兼ね備えたものを整備することを目標にするとあり、本当に親としては心強くありがたく思っておりますが、規模と申ひますか、どれくら</p>

福祉課長	<p>いの人数を受け入れるのか今現在おわかりであれば、だいたいいいのでお教えいただきたいと思います。</p> <p>正確なことはまだ未定でございますが、グループホームとショートステイの機能を併せたような形で、そこに体験型のショートステイも加えたものでございます。また、24時間コールセンターも入るものでございます。規模としてはそんなに大きなものではございませんが、20人から30人の小規模なものを予定しております。</p>
委員	<p>ありがとうございました。</p>
委員長	<p>具体的なものはこれからで、方向性としての説明がございました。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>56ページですが、就労移行支援事業の利用者数というところでございます。目標達成のための基本的方向に新規就労移行支援事業所の開設を推進しますとあります。</p> <p>今、就労移行支援事業所が足りないから就労率が低いのかといえ、私はそうではないような気がいたします。</p> <p>例えば、私のところでは、就労移行支援事業は10名でスタートしたのですが、就職できないためにどんどん減らして行って、就労継続B型に移っていくわけです。そして現在、3名になってしまいました。あるところで就労できないから私どものところへ来てくれている話であって、はたして新しいところを新設してどうなるのかという心配もあります。</p> <p>就労継続B型でも十分就労できるのだからいいではないかという話がありました。確かに私どものところでは、就労継続B型から就職しておりますので、私どももどういうものかなと思っております。</p>
委員長	<p>福祉課長いかがですか。</p>
福祉課長	<p>先ほどのお話の中であった併設している事業所の場合、定員を就労移行支援から就労継続B型に移していかざるを得ないという施設の状況もあるのですが、今後、総合支援学校の卒業生の数がどん</p>

	<p>どん増えていくなかで、就労移行支援の事業所数、定員数もある程度確保が必要であり、開設についても考えていかなければならないだろうということで、このような記載になりました。</p>
委員長	<p>今後、見込まれる数を入れながら考えていくということだそうです。 ございます。</p>
委員	<p>私どものところや、他の施設もそうだと思うのですが、就労移行支援を10名で始めても、就労できないために2、3年で定員を減らさざるを得ない。そして就労継続B型に移行している。また就労したいとなれば、定員増も可能ですが、そういうのを置いておいて新規開設するというのでしょうか。</p>
福祉課長	<p>どんどん人数が増えていくなかで、130人という目標値がござい ますので、1か所ではだんだん定員が減っていくということであれば、新たな施設も必要であろうということでございます。</p>
委員長	<p>現実的にはこういったこともございますので、先を見た中で今後の方向をみながら、具体的に事業として進めていただければと思います。 他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>今の就労移行支援の件ですが、国の方の施策として総合支援学校の普通科の卒業生全員がまずは就労移行支援事業所に入りましようという大前提があります。その卒業生の人数が年々増えていきますと、現状の中ではとてもまかないきれないというのがあります。全国的にそうなのですが、総合支援学校の高等部に進学する人がものすごく増えています。子どもの数は減っているのに、特別支援学校の高等部に行かれる方の右肩上がりというのがものすごく顕著で、新潟県だけではなく全国的に増加しています。新潟県では現在、31か33くらいの特別支援学校が作られている中で、就労移行支援事業所の受け皿がないと、当然卒業生の保護者も困るのではないかなと思います。また、自立支援協議会の就労部会でもその辺を加味してこの形になったのではないかと考えております。 私のほうからは、29ページの乳幼児期保健事業のところですが、平成21年度から平成25年度までの乳幼児健診の一覧表を見せてい</p>

	<p>ただいておりますが、現在、乳幼児健診はほぼ100%に近いのは当たり前だと思っています。ただ、これは何をこの福祉政策の中で意味するのか。なぜこの表をあげたのか、理由付けがありましたらお教えてください。</p> <p>もう1点はスポーツの箇所、東京パラリンピックがあるので支援しようという記載がありますが、今長岡市の場合は、スポーツ支援の担当部署は福祉課ですよね。それをできれば、長岡市にある体育専門の課において、専門分野のところでそれこそパラリンピックに出るくらいの力を付けるという意気込みでやっていただきたいと思います。福祉の方が片手間でするようなものではないと思います。プロになるためには、プロの人を育成する課を作っていたいて、支援をしていただくとありがたいなと思います。今日は、そういった課はいらっしゃらないのですが、実は新潟市はそういうふうになっております。長岡市は本当に片手間という感じで、あとは特別支援学校の高等部の先生方がボランティアでやっているような状況です。やはりそうではなく、プロがプロを教えるような形でやっていただけたらと思います。以上です。</p>
子ども家庭課長	<p>29ページの乳幼児期保健事業の実施状況ということでございますが、御指摘のとおり今90%台で子どもが検診を受けているのは当たり前のごとでございます、この計画に載せる実施状況としては少し相応しくないのかと感じます。これを、乳幼児健診の際に何らかの経過観察や医療につないだお子さんが何名いるのかといったような観点で、どこまで数字が出せるかはまた検討しますが、この部分は差替えさせていただきたいと思います。</p>
委員	<p>確か気になるお子さんの数を国に報告していますよね。その数を載せていただければと思います。</p>
子ども家庭課長	<p>御指摘のとおり、私どもで押さえている数字がございますので、次回お示しできるようにしたいと思います。</p>
福祉課長	<p>スポーツ振興事業のごとでございますが、これまで私どものほうでリハビリですとか仲間作りといった観点でスポーツ事業をいくつか実施してまいりましたが、東京オリンピックが決まりまして、障害者スポーツにつきましてもスポーツ振興課のほうで所管をするということが決まっております。今後、良くなっていくかなと思</p>

<p>委員長</p>	<p>っております。</p> <p>先の国体では水泳等もございました。</p> <p>個人的な意見でございますが、長岡市は車いすバスケットが盛んでございまして、東日本大会に出場しております。</p> <p>障害のある方のスキーもパラリンピック種目とは別として、全日本の障害者スキーの会長の方がもっと普及していきたいということで、市政だよりや社協だよりに教室開催のお知らせがあったように思います。</p> <p>今、スポーツのことが出ましたの、お話をさせていただきました。その他に御意見ございますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>表現の仕方なのですが、施設入所者の削減という表現が随所に出てまいります、削減という言葉が引っ掛かります。国レベルからこういった表現なのかもしれませんが、削減というと本来必要な数を減らしていくという意味合いに受け止められます。私だけなのかもしれませんが、それよりも施設入所から地域移行とか、そういった具体的な表現のほうが良いのではないかと考えております。どうしても削減という言葉は、従業員削減みたいなイメージがございまして、もし御協議できるのでしたらお願いします。</p> <p>もう一つは、移動支援でございます。これは視覚障害者も他の障害の方もそうかもしれませんが、視覚障害の場合は最近、移動支援というよりも、同行援護という形になります。御存じのように視覚障害は読み書きもできないものですから、移動だけではなく、代筆代読といったことも入ってまいりますので、同行援護という形で今進んでおります。この辺の表現は出てくるのか、また移動支援に代わって同行援護が相応しいのかどうか御意見を伺いたいと思います。</p>
<p>福祉課長</p>	<p>施設入所者の削減という言葉なのですが、マイナスイメージのある表現かと思えます。国の通知ですとかがこの表現を使っておりまして、そのまま記載しているのですが、もし変えることができれば適切な表現に替えさせていただく方向で検討させていただきたいと思えます。少し預らせていただきたいと思います。</p> <p>移動支援のお話なのですが、確かに移動支援といえますと視覚障害者の方だけではなくて、身体障害者の方の移動支援も含まれま</p>

	<p>す。福祉サービスの中の同行援護につきましては、視覚障害者の方だけのサービスになりますので、移動支援につきましては地域生活支援事業の中で行っているもので、視覚障害者の方や身体障害者の方、精神障害者の方と範囲が広いものですから、これはこれで残していかなければと思います。視覚障害者の移動支援につきましては、同行援護が全国共通であるということと、御指摘のとおり、外出支援の障害者福祉サービスとして決められた国の事業であることから、視覚障害者の方の移動支援につきましては、順次同行援護に事業者を移行させるように働きかけを行っていきたいと思っております。それについて、この計画では94ページの現状と課題の中で「視覚障害のある人については、今後、同行援護への移行が望めます。」ということで、現状を把握しておりますので、市といたしましても働きかけを行っていきたいと考えております。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員のおっしゃるような削減と言いますと、イメージがあまり良くないですし、大きい狙いは施設よりも地域社会の中で就労あるいは社会化といったことになってこようかと思えます。削減と言ってしまうと、それが目的になってしまう気がしますので、ここは国の表現で前期もありましたが、良い御意見ですので表現を検討していただけたらと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>54ページで入所施設からグループホームの移行者数40人ということで見込んでおられますが、私どもの施設から地域移行される方は、生活介護を日中使う方が多くいらっしゃいます。そうしますと62ページの生活介護の見込量を見ますと平成26年度末から平成29年度末までに15人増を見込んでいらっしゃいますが、移行者40人の内ほとんどが生活介護に行くのではないかと思われるのですが、この辺の数の整合性が取れているのかが気になりますので質問させていただきました。</p>
<p>福祉課課長補佐</p>	<p>人数的なことを申しますと、生活介護は入所の時から使っておりますので、入所している時の生活介護と退所した後の生活介護がカウントされておりますので、そう大きくは増えてきません。</p>

委員	<p>7ページの障害福祉サービスの内訳の表を見ますと、生活介護の部分の内訳が見受けられないので心配になりまして質問させていただきました。</p>
福祉課課長補佐	<p>7ページの内訳でございますが、一番下が就労継続A型、その上が就労継続B型、一番多い部分が日中活動系サービスということで、生活介護を含めてまとまっております。</p>
委員	<p>質問ではなくコメントなのですが、29ページのところで保健事業の実施状況がありますが、子どもは95%以上と非常に高い数字なのですが、成人は数%とかよくて30~40%でございます。実はこうなるのは初めからわかっているのですが、国が生活習慣病を減らすことによって医療費削減をしたいという結論を元に作った計画なので、実際はおそらく無理だろうと思っています。おそらく国は50%を超えたいということでしょうが、50%を超えるのは難しいと思います。子どもの場合は、親が連れて行って診てもらって何かあったら治療してもらいますが、大人の場合は自分で行かなければなりません。生活習慣病というのは、生活習慣を変えるのはものすごく難しいために毎回同じ指摘をされるだけでほとんど改善しないということがあって受診率が上がらないのが初めから予想はされているのですが、理論的に生活習慣病を減らせば医療費が減るということで作られた計画ですので、おそらく改善はいくらもないのではというのが大方の想定なのですが、なかなか引っ込められないのでそのまま国から地方に降りてきて、地方はこれをせざるを得ないのですけれども、パーセンテージはこのような感じでなかなか増えないだろうというのが想定されます。子どもさんはこのとおり成績は良いのですが、大人の方はおそらく良くなりただろうと思っています。</p>
委員長	<p>このカウントができるのは国民健康保険だけということになっているのでしょうか。その数字が委員が言われたように非常に低いということでした。実際には会社などのお勤めのところで皆さん健康診断を受けていらっしゃると思いますので、その方たちのカウントがこの中に入っていないので、パーセンテージが低いのかなと思っています。</p>

委員	<p>会社の場合は義務でさせてます。罰則を設けようと思っているのですが、なかなか上手くいかないようでは上がらないだろうと言われています。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>訂正だけお願いします。43ページの下から10行目の「長岡市内がい者共同販売ネットワーク」とありますが、「障」の1字が抜けているようなので修正していただければと思います。</p>
福祉総務課長	<p>申し訳ございません。追加させていただきます。 ありがとうございました。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。 では、議題の(2)に移らせていただきますがよろしいでしょうか。 議題の(2)パブリックコメントの実施について、事務局から説明をお願いします。</p>
福祉総務課長	<p>それではパブリックコメントについて御説明させていただきます。 (資料 2 に沿って説明)</p>
委員長	<p>パブリックコメントですが、市民の皆様からこの計画についての御意見を伺うということで、来月の9日から再来月の9日までということだそうです。 パブリックコメントについてはよろしいでしょうか。 それでは、全体を通しての御意見はございますでしょうか。</p>
委員	<p>災害はあってはならないのですが、マスコミ等を読んでもりますと福祉避難所指定ですとか民間の協定とかが各自自治体によっては非常に混乱しているとありました。災害に対しての障害者あるいは高齢者の対応について、これから具体的に協議する必要があるのではと思っておりますが、その辺の考えをお聞かせください。</p>

福祉総務課長	<p>御質問ありがとうございます。委員のおっしゃるとおりでございます。災害は当然あってはならないことだというのはごもつものことだと思いますが、実際にはいつ起こるかわからない中で起こるわけですので、普段の備えが必要だという部分でございます。誠に申し訳ございませんが、福祉避難所の指定など私ども少し遅れているところがございます。その部分につきましては、早急に検討させていただきまして、皆様に御覧いただけるような形になった段階でお示しさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。</p>
委員長	<p>私が間違っておりましたら、事務局の方で御指示いただきたいのですが、長岡市では各福祉施設と災害協定を結んでいろいろな場面で施設と連携するというのが20年位前からあると思うのですが、そちらのほうはどうでしょうか。</p>
福祉総務課長	<p>委員長から御指摘いただきましたが、その部分については包括協定ということで法人と協定を結ばせていただいております。今後必要になる部分は、いわゆる個別協定と言いますか、災害があった時に今御在宅であっても実際に避難所ではなかなか難しい方も当然いらっしゃいますので、その方については申し訳ないですが、緊急時においては施設の方で非難をしていただくお願いできないかという個別協定が必要になってくるかと思っております。その部分について、進めさせていただきたいと思っております。</p>
委員長	<p>全体を通して何かございますでしょうか。 御意見がないようですので、(3)その他ですが、事務局から何かありますでしょうか。</p>
福祉総務課企画係長	<p>お配りした資料の最後といたしまして、「ながおかタニタ健康くらぶ」というものを紹介したパンフレットをお配りしておりますが、これについて若干説明させていただきます。 今、長岡市では多世代健康まちづくりプロジェクトということで、多世代に渡る健康づくりというものを進めております。その1つといたしまして、先月11月2日に健康づくり拠点としまして、大手通の市民センターの1階にタニタカフェというものを開設したところでございます。こちらの拠点を活用した健康づくりの仕組みの1つとしまして、「くらぶ」というものを作りました。このくら</p>

	<p>ぶで何をするかといいますと、普段のちょっとした運動の習慣付けというところに着目しまして、活動量計というこれはタニタさんが出しているコンパクトな計器なのですが、こちらを付けておきますと、歩数ですとか時間、消費したカロリー等がこれで計測できるようになっております。これを継続的に取り組んでいただいて、そのデータを管理して視える化するということで、例えばこれだけ運動したから体重が減りましたとか筋肉が付きましたというような成果を皆さんに感じていただきながら、健康づくりに取り組んでいただけるという仕組みでございます。その他にも、食事ですとか歩く以外の運動のエクササイズですとか、そういった動画情報を見れたり、歩くことでポイントを貯めていただいて、そのポイントでお楽しみというような楽しみながら取り組んでいただける仕組みも取り入れてございます。これが今年度の特別価格ということで、3月末までに会員になっていただきますと、1年間3,000円ということで、この活動量計が会員証になるのですが、これを含めた会員価格になっております。2年目以降は2,500円という価格で運営させていただくということになっております。この申込みにつきましては、タニタカフェでもお受けしておりますし、ホームページ上でお受けする専用サイトもございますので、そちらを活用していただいて、ぜひ職場の方ですとかご近所の方ですとかにも情報をお伝えいただければ幸いです。以上でございます。</p>
委員長	他に何かございますか。
委員	今、説明を受けましたが、これは各支所にも移行する考えはありますか。
福祉総務課企画係長	<p>少し説明が足りなかったのですが、この活動量計にはデータが1か月分入るようになっておりますので、1か月以内に専用サーバというものに送信していただくということでデータの管理ができるのですが、そのデータを送信するには専用リーダーというものが必要になってまいりまして、それが今市内の5か所にしか設置してございません。各地域にもリーダーを設置するような拠点を順次整備していきたいという考えがございますので、一気にというわけにはいきませんが、徐々に環境整備のほうも取り組んでいきたいと考えております。</p>

委員	ぜひ地域にもお願いします。
委員長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは進行を事務局にお返しします。</p> <p>これまでの進行に御協力いただき、ありがとうございました。</p>
福祉総務課企画係長	<p>3 閉会</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは最後に事務局を代表しまして、福祉保健部長より御挨拶申し上げます。</p>
福祉保健部長	<p>どうも本日はお忙しいところ、ありがとうございました。今回で3回目になりましたが、今日はだいたいの計画の原案を御審議いただきました。様々な御意見をいただきまして、また細かいところまで読み込んでいただきまして、大変ありがとうございました。</p> <p>先ほどの説明にありましたように、今後パブリックコメントを経まして、今日の御意見もこの計画原案の中に反映させていただいたものをパブリックコメントでお示しして、正案を作っていくと思います。</p> <p>今年度もう一度、最終案ということでお諮りさせていただいて、正案とさせていただきたいと思います。</p> <p>障害福祉につきましては、国際レベルで大きな動きがございまして、日本もその枠組みの中で様々な変更がされております。その大きな変化の中での節目の計画でございますので、市といたしましてもこれを土台として障害福祉の一層の推進に努めてまいりたいと思っておりますので、今後とも御協力をお願いいたします。</p> <p>本日は大変ありがとうございました。</p>
福祉総務課企画係長	<p>長時間に渡りありがとうございました。本日の議事録につきましては、後ほど皆様にお届けいたしますとともに、ホームページ上でも公開させていただきます。</p> <p>本日は大変ありがとうございました。</p>
<p>8 会議資料 別添のとおり</p>	